

あなみず 議会だより

2025 vol. **51**

令和 7 年 2 月 1 日発行
石川県穴水町議会

令和 7 年 1 月 1 日

令和 6 年能登半島地震・奥能登豪雨犠牲者追悼式
(サテライト会場：フルート)

議案一覧	2
常任委員会	3
補正予算	4～5
議員レポート	5
一般質問	6～10
中学生議会	11
町民インタビュー	12



令和6年第4回穴水町議会 11月臨時会 議案一覧



会期：令和6年11月18日

番 号	件 名	可 否	摘 要
議案第52号	令和6年能登半島地震（6-5450号）管渠災害復旧工事（1工区）請負契約の締結について	原案可決	全員賛成



令和6年第5回穴水町議会 12月定例会 議案一覧



会期：令和6年12月3日～12月13日

番 号	件 名	可 否	摘 要
議案第53号	令和6年度穴水町一般会計補正予算（第5号）	原案可決	全員賛成
議案第54号	令和6年度穴水町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	原案可決	
議案第55号	令和6年度穴水町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）	原案可決	
議案第56号	令和6年度穴水町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	原案可決	
議案第57号	令和6年度穴水町病院事業会計補正予算（第3号）	原案可決	
議案第58号	令和6年度穴水町水道事業会計補正予算（第3号）	原案可決	
議案第59号	令和6年能登半島地震（6-5451号）管渠災害復旧工事（1工区）請負契約の締結について	原案可決	
議案第60号	令和6年能登半島地震（6-5453号）管渠災害復旧工事（1工区）請負契約の締結について	原案可決	
議案第61号	財産の取得について（歩道除雪機20台）	原案可決	

報告第23号	令和6年度穴水町一般会計補正予算（第4号）の専決処分の報告について	原案承認	全員賛成
報告第24号	穴水町税条例の一部を改正する条例の専決処分の報告について	原案承認	

諮問第1号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	原案適当	全員賛成
-------	--------------------------	------	------

議会報告第7号	例月出納検査の結果報告について		
---------	-----------------	--	--

常任委員会活動



常任委員会とは

議案・請願・陳情を詳しく審査するため、法律に基づいて設置される委員会で、穴水町には産業や税等を扱う「総務産業建設常任委員会」と教育や福祉・環境などを中心に扱う「教育民生常任委員会」の2つがあります。

総務産業建設常任委員会 ～主要要望・指摘事項～

委員：浜崎・小谷・山本・大中・小泉

各種事業の申請終了の周知について

令和6年能登半島地震により、各種補助金事業の申請受付を実施しているが、施工業者の不足により完成の目途が立てにくくなっている。受付終了期限が今後決められてくる事業が出てくると思うが、早い段階で周知を図り、対象者が申請漏れすることのないよう対応を望む

道路の災害復旧工事について

下水道管渠災害復旧工事が順次進められていき、一時的に道路の仮舗装が行われると思うが、道路の災害復旧工事についても、連携を図りながら早期の回復に努めて欲しい

歩道除雪機の取扱いについて

仮設住宅団地へ配備する歩道除雪機については、取扱いに十分注意するよう使用者に対し講習を行って欲しい

春よこい商品券事業について

使用できる店舗の数が震災により減っている。一枚でも多く使用していただけるよう周知するように

教育民生常任委員会 ～主要要望・指摘事項～

委員：小坂・宮本・佐藤・湯口・伊藤

訪問介護職員の人材確保について

在宅介護サービスを受けるためには、訪問介護職員の確保が重要であるため、各事業所に対して、人材確保につながるような助言を要望する

公立穴水総合病院の待ち時間について

診察を予約してありながら1時間近く待たされたり、会計の際にも長く待たされると聞く。待ち時間の短縮に努めて欲しい

作業従事者の安全管理と健康管理について

公費解体関係業者においては、これから冬期間に入り積雪等も心配されるが、公費解体に際して事故や怪我がないよう安全管理を徹底し、また、健康に留意しながら作業を行うよう指導を行って欲しい

災害片付けごみの減免について

災害片付けごみのあすなる広場での受入れが終了し、減免措置により、輪島・穴水クリーンセンター及び山中最終処分場への受入れを行っていることを町民に周知するように



補正予算の概要【令和6年度10月補正（専決）・12月補正】



会 計			12 月補正	10 月補正（専決）	予算額（補正後）
一 般 会 計			108 億 5,430 万円	1,000 万円	301 億 6,050 万円
特別会計	国民健康保険		1,546 万円	—	10 億 3,686 万円
	公 共 下 水 道		889 万円	—	28 億 9,662 万円
	介 護 保 険		—	—	15 億 9,196 万円
	後期高齢者医療		855 万円	—	1 億 8,971 万円
企業会計	病院事業	収益的	118 万円	—	25 億 3,068 万円
		資本的	1,182 万円	—	3 億 6,729 万円
	水道事業	収益的	213 万円	—	4 億 3,726 万円
		資本的	1,019 万円	—	10 億 8,346 万円
合 計			109 億 1,252 万円	1,000 万円	402 億 9,434 万円

※企業会計は、支出額を計上

○ケーブルテレビ災害復旧事業

2億1,071万円

震災で損傷した伝送路及び放送設備等の復旧、FTTH
化工事を継続実施する経費の一部を補助

総事業費：伝送路設備 …3億9,000万円

センター内設備 …2億9,600万円

局舎建設 …1億5,684万円

負担割合：国 8/12、町 3/12、事業者 1/12

○仮設住宅団地歩道除雪機導入事業

1,363万円

団地内の駐車場や通路等を自治会が中心となり効率的に除雪を行うため配置する

配置先：仮設住宅団地 16 団地

導入台数：20 台

○仮設住宅団地維持管理支援事業

6,000万円

団地内の駐車場を舗装工事し、除雪の効率化を図る

○家庭用井戸整備事業

1,000万円

安定的な飲用水を確保するため、家庭用井戸の復旧
に要した経費の一部を補助

対象地区：町内の未給水地区

補助金額：1/2（上限 100 万円）

事業期間：令和 8 年 3 月 31 日まで

○穴水町営業再開支援事業

1,500万円

県営業再開支援補助金の採択を受けた事業者に対し、
町が上乘せ補助

補助率：2/3（上限 100 万円）

○災害公営住宅建設事業 8,488 万円

災害公営住宅建設用地 (4箇所) の購入等に係る経費
土地購入費 (13,824 ㎡) …6,192 万円
用地等調査委託料……………1,991 万円
物件補償・その他経費……………305 万円

○農林水産施設災害復旧事業 4 億 7,093 万円

- ・林道測量設計業務委託料……………1 億 9,880 万円
対象：29 路線
被害箇所：313箇所、被害延長：12,620m
- ・漁港測量設計業務委託料……………2 億 6,227 万円
対象：8 漁港
- ・農村生活環境施設等復旧工事……………986 万円
対象：大角間地区小規模水道
桂谷地区小規模水道
下唐川地区簡易水道
小又地区簡易水道

○災害廃棄物処理事業 87 億 1,273 万円

国の査定を受け、公費解体に係る災害廃棄物処理事業費の不足分を増額補正

○農業用施設災害復旧事業 3 億 9,384 万円

被災した農業施設・機械の再建等を支援。申請件数の増加による補正
負担割合：事業者 1/10、国・県 7/10、町 2/10

○文教施設災害復旧事業 2 億 7,431 万円

- ・町立図書館関係 ……………54 万円
- ・のとふれあい文化センター関係 ……………4,500 万円
- ・小中学校 (校舎・体育館 等) 関係 ……2 億 2,877 万円

○ 人事案件

- ・人権擁護委員
横田 松嗣 氏 (梶) 再任 (任期：令和 7 年 4 月 1 日～令和 10 年 3 月 31 日)

議員活動レポート

鳥取県日野町議会教育民生常任委員会 行政視察受入

11 月 5 日に日野町議会より 6 名が訪問。
発災当時の災害対策本部と外部団体との連携、避難所運営、公立総合病院の対応などについて意見交換を行いました。正副議長との意見交換では、議会の対応について意見を交わしました。



東京都八王子市議会自民党新政会行政視察受入

12 月 19 日に八王子市議会 8 名が訪問。
災害からの復旧状況や、対口支援・中長期派遣制度、公費解体、災害廃棄物処理の状況などについて意見交換が行われました。

農林水産業の被災状況と復旧への支援を

一次産業・地場産業への支援は、国・県・町一体で行っていく



伊藤 繁男 議員

問 後世に記憶を残すために、震災モニメントを建立してはどうか。また、新年の祝賀と追悼をどのように行うのか

答 モニメントの建立は復旧の目途が立った時期で、震災を風化させないための取り組みのひとつとして検討したい。また、来年元日に行われる「令和6年能登半島地震並びに奥能登豪雨犠牲者追悼式」は県が主催となって開催され、本町も被災自治体として参加する。以降の開催方針は未定である
(吉村町長)

問 北陸新幹線の早期接続に向け、米原ルート
の旗を掲げるべきでは

答 開業効果を考えると、少しでも早い時期が望ましい。石川県の動向を注視し関係自治体とJRとの協議を見守っていく
(吉村町長)

問 風力発電計画の現状と対応は

答 能登半島地震により計画区域内でも大規模な被害があり、各事業者の環境影響評価の手続きがとどまっている状況である。事業者には現地調査結果がまとまった段階で、住民に対し丁寧な説明を求めている。事業者や県、国に対し、適切な環境保全が講じられるようしっかりと求めていく
(宮崎副町長)

問 農林水産業の被災状況を調査し復旧の支援を

答 農業施設などの被災状況は、約800件、27億円

と見込んでおり、査定を終えた箇所から早期復旧に向け工事発注を行う。農業機械取得等支援事業では、約50件、4億7千万円の被害額を見込んでおり、JAのとろろ支店を相談窓口申請を受付している。カキ棚及び加工場については、養殖生産体制復旧対策事業を活用し1件が資機材を再取得、加工場は8件が被災し2件が公費解体、修繕等には、なりわい再建支援補助金の活用を提案。宿泊施設は、23軒のうち17軒が営業再開。農家民宿では、8軒すべてが営業を再開。一次産業、地場産業への支援は今後も国・県・町一体となって行っていく
(金谷地域整備課長)

災害公営住宅について

問 公設相談所の開設の検討を

答 県建築住宅課が住まいの相談窓口を開設している。県と連携を密にしながら相談会の開催など行っていく
(金谷地域整備課長)

問 石川県が管理所有する住宅を譲り受け、修繕し公営住宅にしてはどうか

答 既存の町営住宅の建設時期と比較しても古く、改修費用、維持管理費が多額となることから予想される。新たに災害公営住宅を整備し、安心して住まいができる場所を全力で確保していく
(金谷地域整備課長)

公共施設について

問 国民保養センター真名井の再建の早期行動開始を望む

答 国民保養センター真名井の再開は難しく、来年度以降解体撤去を予定している。代替え及び民間企業の誘致を含め検討していく
(荒木環境安全課長)

問 穴高ヨット艇庫の利活用の検討を

答 石川県の建物で無償貸付契約を締結している。使用の目的を「海洋スポーツを通じた住民交流の場の用途に自ら供するもの」と定められており、今後も穴水湾の穏やかな海で町内外の子どもたちに海洋スポーツを楽しむための施設として活用していく
(荒木環境安全課長)

再就職支援について

問 ハローワークと協力し、合同企業説明会を穴水町で開催し求職活動の支援を

答 ハローワークとの更なる連携を図り開催できるように今後も働きかけていくと共に、企業説明会の開催等の情報についても町民への周知に努める
(小林観光交流課長)

問 官民資格取得奨励策の検討を

答 業務が高度化・専門化する現代において、資格取得は官民問わず奨励されるべきであり、若者の定着や再就職の支援の観点からも、他市町の制度も含め、さらに検討していく
(小林観光交流課長)



山本 祐孝 議員

令和7年度当初予算編成方針は

4つのシンボルプロジェクトを中心に「住民参加でつくるまち」
「暮らすことに誇りが持てるまち」の実現に向けた予算とする

問 令和7年度当初予算編成方針は

答 令和7年度は「復旧」から「復興」へ向けた予算編成の初年度であり、現在策定中の「穴水町復興計画」に掲げる4つのプロジェクトの実現に向け、新たな視点からの必要な施策や事業のほか、石川県において創設された「令和6年能登半島地震復興基金」を財源とした各種事業についても、確実に予算に反映するよう指示している。道路や公共施設の復旧事業や公費解体を着実に実行し「災害公営住宅の建設」「新穴水小学校の建設」「のと鉄道穴水駅を含めた中心商店街の再生事業」の立案と推進であり、4つのシンボルプロジェクトを中心に本町が目指す「住民参加でつくるまち」「暮らすことに誇りが持てるまち」の実現に向け予算編成を行う

(吉村町長)

問 震災を機に周辺市町では学校統廃合が議論されているが、本町の2小学校の学校統合の見通しは

答 児童の安全確保や円滑な学校教育を行うため、穴水小学校の建て替えと向洋小学校の修繕・復旧を優先していく。子どもたちにとって10年、20年先を見据えた、望ましい教育環境について、町の方針や考え方を説明し、保護者や町民の意見を聞いていく

(大間教育長)

問 仮設住宅団地内の除雪対応は

答 団地内の駐車場、通路を除雪するため小型除雪機を配備する。除雪作業は、自治会で協議・調整し行ってもらう。配備後は、メーカーと機械の操作説明会を実施し、安全に安心して快適に過ごせるよう、町としてサポートしていく

(黒田復旧復興対策室長)



問 教育委員会事務局において、学校行事以外で児童生徒が団体行動をする際の許可基準は

答 全てを把握することはできないが、民間主催事業で町に後援依頼があった場合は、その事業が適正か慎重に判断している。利用料が無料など児童生徒が気軽に参加できるか、傷害保険へ加入しているか、事故防止対策など安全に配慮され、子どもたちの楽しみや、より深い学びに繋がるかなどを基準としている

(松尾教育委員会事務局長)



小泉 一明 議員

志賀原発事故の対応は

国・県の対応を見極め、避難計画、町地域防災計画の見直しを行う

問 「穴水高校口バス停」の電灯は

答 震災後、北鉄奥能登バスが安全確保のため損壊した電灯の送電支柱と電線を撤去している。利用者には不便をかけたが、通電作業を完了し点灯している

(小林観光交流課長)

問 志賀原発の避難計画に対する見直しは

答 原発事故が発生した場合、避難計画では珠洲市に避難することとなっているが、今回の能登半島地震では道路の寸断や珠洲市でも大きな被害が発生しており、避難できる状況になかったことを受け、見直す必要があると考える。国・県の対応を見極め、避難計画を含めた町地域防災計画の見直しを行う

(宮崎副町長)





大中 正司 議員

復興未来づくり会議の運営面や成果物についての総括を聞く

ひとつでも多くのアイデアが実現に結び付けられるよう、町として積極的に支援していく

穴水町復興計画について

問 計画期間はどのように区分されているのか

答 穴水町復興計画は、計画期間を5年間で定め、復旧・復興・発展の3分類とし、それぞれに目標を定めている。さらに、3分類に応じ「施策の位置づけ」「活動時期」と再分類している。本町では各分野別の実施計画において、具体的なスケジュールを定め推進していく。前倒しで実施できる取り組みについては、可能な限り速やかに着手していく

(吉村町長)

問 現段階で目標設定ができる取り組みを抽出し、補足してはどうか

答 優先順位を十分に検討し、個別に計画する「分野別の実施計画」で、具体的なスケジュールなどを定め「道しるべ」として、町民に示し推進していく

(吉村町長)



問 個別に計画する分野別の実施計画を町民にどう開示するのか

答 「被害・復旧状況カルテ」などで公開するよう考えている

(吉村町長)

問 住民説明会の開催予定はあるか

答 例年開催する地区懇談会の中で、復興計画の進捗状況などの説明と報告を行う予定。復興計画に特化した説明会を開催する予定はない

(吉村町長)



問 復興未来づくり会議での成果物の活用において、伴走支援とスタートアップキャンパスの活用は具体例は

答 新たなチャレンジを実践する方やメンバーを、事業が軌道に乗るまで支援を行うのが伴走支援である。事前に本人が描くビジョンなどの内容を可視化するために、

事業指標や必要コストのほか収益の流れなどの各項目を設定し、実行の可能性や実現の可能性などを判断する手段として、スタートアップキャンパスを活用する

(吉村町長)

問 伴走支援やスタートアップキャンパスの活用は町民には難易度が高いように思うがどのように考えるか

答 個人にしる行政にしる、「やってみよう」という思いを汲み実現していくことが、復興計画を道しるべとした復興だと考えている

(吉村町長)

問 復興未来づくり会議の運営面や成果物についての総括を聞く

答 成果物については、250を超えるアイデアが出された。ひとつでも多くのアイデアが実現に結び付けられるよう、町として積極的に支援していく

(吉村町長)





宮本 浩司 議員

人口増加の施策として、自宅にUターンする際のリフォーム費用を補助してはどうか

人口増加対策の一環として、今後検討していきたい



問 人口増加の施策として、自宅にUターンする際のリフォーム費用の補助をしてはどうか。また、震災によるものであれば遡及も検討しては

答 定住促進奨励金事業は人口減少を抑制し、定住を促進し地域の活性化を図ることを目的とした制度である。

(小林観光交流課長)

区長・町内会長からの要望・意見について

問 今年度に対応できる要望とは

答 本年度、区長町内会長協議会から町に提出された要望は171件。比較的早期に対応できるものは3割程度で、県施工のものを除き、道路や水道の応急復旧や公費解体、石川県復興基金メニューの一部が対応可能と判断している (北川総務課長)

問 要望に対して町民がなぜ「何も対応してくれない」との発言にいたると考えるか

答 財源の確保が困難なもの、石川県で対応するもの、時間を要する案件など軽々しく返答できず数年にわたり「検討する」「県に要望する」などの回答を繰り返しているからだと認識している (北川総務課長)

問 そのような発言をどのように受け止めるか

答 回答が遅れたり、正確な答えを返さないことで誤解が生じ、町として努力不足と感じている (北川総務課長)

問 そうような発言に至らないように、どう対応していくべきと考えるか

答 必要性や実施時期について、場合によっては「難しい」「今はできない」ことを、相手に理解してもらえよう (北川総務課長)

(北川総務課長)



湯口 かをる 議員

高齢者の交通支援対策について

増便や運行ルートの見直しなどを行い、町民への支援に努める

問 町職員採用の適正化は

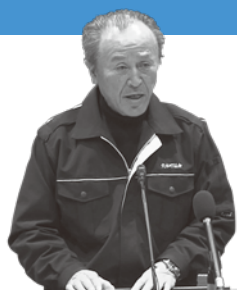
答 6月から事務職、技術職を中心に8区分で募集し、積極的な職員採用に努めている。応募のない職種については追加募集するほか、不足する分野については、任期付職員や会計年度職員で補充する。今は非常時で、人員不足であり3人に1人が派遣職員となっているが、全国からの優秀な職員から学び、早期の震災からの復旧と復興に向け、必要な人材を配置して行く考えである (北川総務課長)

問 高齢者の交通支援対策は

答 市街地の移動については、無償で市街地循環バスを運行。見守りバスでは、震災で生活に必要な移動が難しい住民の支援として、市街地以外の仮設住宅を起点とし穴水総合病院や駅、買い物のできる店舗周辺を繋いで運行している。増便やきめ細かな運行ルートの見直しなど積極的に行い、町民への支援に努める (小林観光交流課長)

問 11月26日夜に発生した地震で翌日欠席した児童生徒はいなかったか。また、B&G海洋センターに運動器具等を設置し町民の運動不足を解消できないか

答 町立学校3校では、その地震を理由に欠席する者はいなかった。一度治まっていた心身の反応がふり返すこともあり、注意深く観察する必要がある。体育館及び武道館は9月から再開し毎日利用がある。町営フィットネスジムチアフルも8月から営業を再開しており、新たな整備は慎重に判断したい (大間教育長)



小谷 政一 議員

中心市街地に災害公営住宅を建設する考えはないのか

調査結果やバランス等を勘案し、総合的に検討していく

問 発災時、唯一奥能登方面へ通行可能であった国道249号の拡幅を含めた強靱な整備を要望し、能登地域の交流人口や関係人口の拡大に繋がるものにして欲しい

答 能登総合開発促進協議会や石川県町長会などを通じ国・県に要望を行っているが、石川県の目指す構想に沿った計画であるため強く働きかけを行っていく

(金谷地域整備課長)

町営住宅及び災害公営住宅について

問 ①町営住宅管理戸数及び入居戸数、②被災し使用不可能となった戸数、③修繕予定の町営住宅戸数は

答 ①管理戸数152戸、入居戸数112戸
②使用不可能は30戸
③修繕予定は39戸

(金谷地域整備課長)



問 長期避難区域にある町営住宅に入居していた方は、優先的に災害公営住宅に入居可能か。家賃はどうか

答 優先的に入居できるとは限らない。家賃については、公営住宅法並びに施行令に定められており、近傍同種家賃以下の家賃となる

(金谷地域整備課長)



問 中心市街地に災害公営住宅を建設することで賑わいが戻るのではないかと思うが、調査を行い、そこで建設する考えはないか

答 現在進めている災害公営住宅建設候補地の選定にあたり調査は実施している。

調査結果やバランス等を勘案し、総合的に検討していく。また、民間事業者から住宅整備などの話を受けているので併せて進めていく

(金谷地域整備課長)



小坂 孝純 議員

穴水町の地の利を活かした未来の魅力ある町づくりを要望する

奥能登の玄関口として町づくりを進め、未来の魅力ある穴水町づくりを進めていく

問 商店街の再生に取り組む中で、町出身者の作品展ができるスペースを確保し、交流人口・町民が集える場所の確保を要望する

答 町復興計画(案)に「奥能登の玄関口だけでなく目的地穴水」となるよう、穴水駅舎や周辺施設等の再整備やにぎわい創出に向けた商店街等の再生を掲げている。町にゆかりのある偉人の功績を町民や観光客にアピールする場を盛り込んでいく

(吉村町長)

問 穴水町の地の利を活かした未来の魅力ある町づくりを要望する

答 地理的条件や自然を活かし、新しい住宅地の整備や企業誘致などに取り組み、のど鉄道を守り、中核となりうる交通手段の整備を図り、奥能登の玄関口として町づくりを進め、未来の魅力ある穴水町づくりを進めていく

(吉村町長)

問 能登半島地震により被災した町民が受けられる国・県・町の義援金、支援金等制度を町民に示して欲しい

答 町広報6月号で、住家の罹災判定別に支援制度の一覧を掲載し、また、制度が追加されるごとにホームページを改定し周知を図っている。多種多様な制度であり、今後も正確でわかりやすく支援制度の周知に努める

(北川総務課長)

穴水町 中学生議会

令和6年11月18日に穴水中学校の3年生の皆さんが中学生議会に挑みました。

議場にて瀧川さゆき議長、山崎紗菜副議長が議事進行を行い、書記の越智栞汰さんが参加趣旨を、

同じく書記の鳥越圭紳さんが日程を読み上げ、山田優翔さんが終わりの挨拶を行いました。

こさき ひろと
小崎 滉人

問 町内の各所に誰もがわかる防災マップ看板の設置を

答 外国の方や小学生にもわかるような表記の看板を作成し、人が多く訪れる場所に設置していく。災害に強いまちづくりの実現に向けて様々な施策に取り組んでいく

しもの さあや
下野 咲彩

問 ごみ拾いとあいさつ運動できれいな町と地域での交流を

答 環境美化に関する意識の啓発や施策の推進、仮設住宅団地などでもコミュニケーション活性化のため挨拶運動の推奨に努めていく

たなか だいき
田中 大輝

問 地域活性化のため「みんなで繋がるう挨拶運動」を

答 学生の皆さんや町民が共に連携し、日常での繋がりや輪が広がるよう「挨拶運動」を展開していく方法や手段について検討していく

てらにし かずま
寺西 一真

問 自然を守りながら土砂崩れ対策を

答 今の公共工事には、多岐にわたる環境への配慮が求められている。今後の復旧工事にも、町の豊かな自然を失わないよう環境に配慮しながら整備を進めていく

なかやま こうか
中山 采香

問 地元の人が運営する「復興カフェ」の開設を

答 気軽に立寄れる「復興カフェ」実現のため、復旧・復興に繋がるような魅力ある交流拠点づくりを目指していく

まえだ かほ
前田 華歩

問 日常から周辺市町との協力や連携により非常に時に助け合いを

答 今後、いつ起こるかわからない災害に備え、周辺自治体との連携はもとより全国の自治体と協定を随時締結し、新たな都市との連携を図っていきたい

まつおか ゆきな
松岡 優希奈

問 空き家・空き地などを泊施設を

答 観光やビジネスで訪れた方や町民の皆様が、安心で快適に過ごせるような施設を中長期的な視点で考え、地域の魅力を活用できる事業の立案や誘致に努めていく

やちよう みく
弥長 美空

問 W i F i 環境を整備し、デジタルスタンプラリーで町をP R し、災害時に備えては

答 デジタルツールの活用も含め、さまざまなP R 活動により穴水町の良いところを知ってもらい、多くの人々が集う元気な町になるよう取り組んでいく

わた こうき
和田 浩輝

問 観光と避難所として活用できるキャンプ場の開設を

答 費用や場所の確保など様々な課題もあるが、町の魅力発信のための選択肢として、中長期的な視点で検討していく

いしかわ ゆか
石川 愉花

問 空き地を活用し「アニマルカフェ」の開設を

答 町民の癒しが図られる、空き地等を活用した「アニマルカフェ」は町民のストレス軽減にも効果的である。新規開業が積極的に行われるよう、引き続き創業支援に努めていく

おおさわ みづき
大澤 深月

問 四季折々の花を咲かせ観光客を呼び込む

答 人の訪れやすい環境作りには、関係団体との協力が必要。どのような方法が良いのか検討しながら、住みよく、又集客に繋がる町づくりに努めていく

こやま りく
小山 凌空

問 多くのイベント開催で町に活性化を

答 地震をきっかけに全国から応援してくれる関係自治体と連携しながら交流イベントを実施するなど、今後様々な角度から新たな取り組みを模索していく

にしだ ましろ
西田 昌白

問 町の自然をSNSで発信し、写真スポットを設け認知度を高めては

答 SNSでの情報発信は、町の魅力を伝える大変有効な手段である。今後県内外の方々、地域に住む皆さんに新たな魅力・情報を発信していく

まつだ みこと
松田 弥寿

問 一家族限定の穴水湾クルージング観光を

答 民間企業の誘致も視野に入れ、総合的な効果やリスクについて検討し、魅力ある観光づくりを行うことで、能登半島地震からの観光復興を促進していく

みややち こうせい
宮谷内 孝星

問 穴水駅からの移動手段を増やし、観光客増加に繋げては

答 これまでに無い新たな交通手段の導入なども検討しながら、魅力ある再整備を進めていきたい



第1回目は、港町仮設住宅に暮らす、橋詰里美さん(静岡県出身)を紹介します。
平成28年に防災士資格を取得し、今回の地震発災後、避難所運営に最後まで尽力いただきました。

Q 穴水町に移住したきっかけは？

第一子を出産後、夫の実家がある輪島市門前町皆月へ金沢市からUターン。
第二子の病気もあり、小児科専門医師がいる穴水町へ転入しました。能登で暮らしていくことに迷いがある中、平成19年の地震の時、駅前のマンションで被災し、たくさんの方の親切に触れ、「この町で子供を育てよう！」と、覚悟を決めました。



避難所閉鎖の記念に（前列右端が私）

Q 震災後、穴水中学校で避難所運営にあたった感想は？

名簿作りなど、運営としてしっかりと活動できたのは、1月中旬に剣道場へ移動してからだと思います。部屋割りなど、移動前の話し合いに参加した事がきっかけで運営に携わりました。（防災士資格を取得するために、講習を受けていたことが役に立ち本当に良かったです。）

初めて顔を合わせる方が多かった中で、本当に人に恵まれた避難所でした。避難所は、女性目線で切り盛りし、力仕事など困った事は男性に頼み、年配の方々の知恵を借りながら、フェーズが変わる度に話し合いをしてみんなで乗り越えてきました。

4名の女性と運営に当たりましたが、今思えば「行き届かなかった面も多くあったな」と、後悔する部分もあります。最後まで救急車を呼ぶことなく、全員を仮設住宅に送り出すことができホッとしましたし、楽しかった思い出も多く避難所生活は一生の思い出となりました。

一緒に暮らしてくださった皆さん、各方面から支援してくださった皆さん、私を後方で支えてくれた夫に改めて感謝を伝えたいです。



港町仮設住宅団地で忘年会をし、親睦を深めました

Q 町や議会に対して望むことは？

歴史や伝統を守りながらの「復興」と、新しく切り開いて行く「新興」をバランスよく、人口の少なさを活かした町づくりを期待しています。経験したからこそその防災の町。全国のモデルになれるような「防災に特化した町」になっていくといいなと思います。

(インタビュー：小谷 政一)

編集後記

発行日の今となれば二ヶ月も前の話になってしまつたのですが、正月休みの徒然に町広報の一年分を漫然と眺めていました。その中で「町長コラム」は興味深く簡潔な文章構成に感心しながら読みました。小欄では内容の詳細に触れませんが、当然のことながら多くは災害復興を骨子として、随所に吉村町長の折々の思いがつつられていました。

「災害発生から一年余りが経過した今（この原稿は一月下旬に書いています）、『議会だより』の編集後記を担当するにあたり、私も少しだけ思いを述べさせていただきます。

町が昨年末に策定した復興計画では、「災害公営住宅の建設」と「新穴水小学校の建設」、そして「穴水駅を中心とした商店街の活性化」を柱としています。三本柱は、どれも大事なのですが、とりわけ「災害公営住宅の建設」が最大の関心事であることは論をまちません。仮設住宅入居者に限らず、解体撤去によって周辺が空き地だらけになった地域に住む町民の皆さんの声は、私たち議会にも町執行部にも届いています。町の現時点での計画では、上野地区を皮切りに四力所で建設を進めようとしています。その他でも寂しくなった地区の存続・活性化のためにも、どこに建てるべきか、建設方針の念頭に置くべき課題だと考えます。

「つらい思いをされている町民に寄り添うことができるだろうか、何かできるだろうか、改めて自問自答し続ける日々です」とは、町長コラムの中の文ですが、今後の町づくりを考えた時、導き出される答えは明白です。

「思いやりとは想像力、他者の苦しみや悲しみを想像できる心です」とは、瀬戸内寂聴の言葉だったでしょうか。

文責 大中 正司

穴水町議会広報編集特別委員会

委員長	小谷 政一
副委員長	宮本 浩司
委員	大中 正司
委員	小坂 孝純

